

# 山形大学高度医療人研修センターのご案内

高度医療人研修センター長  
地域医療システム講座(山形県寄附講座)教授 佐藤 慎哉



山形大学医学部は、医療従事者の生涯教育支援による地域医療の質の向上を目指して、高度医療人研修センターを開設いたしました。今回、蔵王協議会だよりの誌面をお借りして、ご紹介させていただきます。

## 【高度医療人研修センターとは】

医学部卒業後の医師のキャリアパスを考えると、市中病院独自で生涯にわたり研修できることには限りがあります。大学病院のもつ教育病院としての機能を十分に利用することが有効です。生涯にわたり研鑽を積む志の高い医師にその機会を提供するのが新設した「高度医療人研修センター」です。本センターの事業推進には、地方自治体等との連携が不可欠であり、山形県寄附講座「地域医療システム」の中に開設いたしました。

## 【利用の具体例】

1. 専門医資格の取得(図1): 抗がん薬治療の専門医資格を取るためには、日本臨床腫瘍学会の認定訓練施設で2年以上診療に従事する必要がありますが、山形県を例にあげると認定訓練施設は大学病院、県立中央病院、市立病院済生館の3施設しかありません。現実的には、その他の医療施設の医師が、県立中央病院や市立病院で2年以上の研修を行うことは困難であり、実際に抗がん薬を使って治療にあたっている医師が、経験を生かして専門医を希望しても資格を得ることは困難です。山形大学医学部附属病院は、前述の日本臨床腫瘍学会認定訓練施設をはじめ、現在55の専門医・認定医資格取得のための研修・協力施設として認定されており、ほぼ全ての専門医・認定医資格取得のための研修が可能です。本センターでは、地域の病院で勤務する医師の希望に応じて附属病院の関連する診療科との調整を行い、医員として給与を得ながら、研修中の経済的な問題を心配することなくより専門的な研修する機会を提供します。

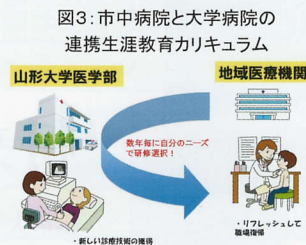


地域医療に従事している医師の中にも、より高度な医療を地域に提供するために、大学院で臨床研究を行い、自分の医師としての能力を高めたというニーズは非常に高いことがわかってきました。山形大学大学院には、社会人特別枠があり、市中病院に勤務しながらでも大学院に入学することが可能です。



3. 市中病院と大学病院の連携生涯教育カリキュラム(図3): 医師が比較的規模の小さな医療機関への就職をためらう原因の一つに、「十分な生涯教育を受ける機会が乏しく医学の進歩について行けないのではないか?」という不安があげられると思います。

このような場合に、例えば「3年毎に希望する診療科で数ヶ月間大学病院での研修を受けられる(内地留学)」といった制度をつくることも有効ではないでしょうか。これは、近年、その重要性が叫ばれている循環型の生涯教育システムそのものです。大学病院との連携を病院の特色として積極的に広報して頂ければと考えております。



本事業に関心ある方は、高度医療人研修センターホームページ([http://www.id.yamagata-u.ac.jp/Chiiki\\_iryu/koudo/koudo.html](http://www.id.yamagata-u.ac.jp/Chiiki_iryu/koudo/koudo.html))をご覧ください。

